

平成30年12月31日
バンコク産業情報センター
鈴木 太郎

一般調査報告書

インドネシアにおける新たな日本人学校の開設について

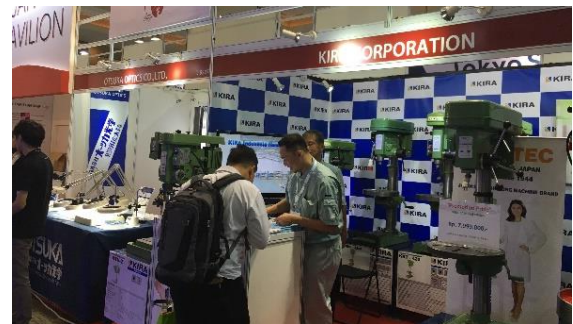
12月5日から4日間、インドネシアで東南アジア最大級となる産業機械の展示会「Manufacturing Indonesia2018」が開催されました。昨年は、日本はじめ中国、韓国、台湾などのナショナルパビリオンはじめ30の国・地域から約1600社が出展し、3万人を超える入場者数となっています。

今年度、JETROが主催するジャパンパビリオン出展した40社のうち愛知県から7社が参加し、県では出展費用の助成や通訳補助の支援を行いました。大変多くの参加者で賑わっており、インドネシアの経済発展の勢いを感じる展示会となっていました。

(展示会の様子)



(展示会の様子)



さて、堅調な経済成長を続けるインドネシアでは、国内の自動車販売台数も毎年伸びており、2017年実績では約106万台と、すでにタイの販売台数を上回っています。愛知県からも、自動車関連はじめ製造業を中心に多くの企業がインドネシアに進出していますが、現地で進出企業が抱える大きな課題に「渋滞問題」があります。

個人所得の上昇とともに自動車やオートバイなどが増加する一方で、道路や鉄道など輸送インフラが不足していることに加え、その対策工事がさらに渋滞に拍車をかける状況になっています。

特に製造業を中心とした多くの日系企業が進出するジャカルタ東部のカラワン、チカラン方面とジャカルタをつなぐチカンペック高速道路の渋滞は激しく、ジャカルタから片道1時間程度で行ける距離が3、4時間かかることが常態化しているそうです。

現在、同高速道路の拡張やダブルデッキ（2階建て）工事を行っていますが、完成までにはまだ時間がかかる見込みとなっています。

（ジャカルタ周辺地図）



このため、ジャカルタ東部の工業団地で働く日系企業の方は、ジャカルタではなく工業団地周辺に住む方も増えていますが、お子さんも一緒に赴任されているため、ジャカルタから長時間かけ通勤する方もいるそうです。

こうした環境を改善するため、現在、ジャカルタ東部地区に新たな日本人学校を設立する計画が進められており、今回、チカラン日本人学校設立準備委員会の服部様に、設立に向けた状況をお聞きしましたので、その概要を報告したいと思います。

（以下、服部様との Q&A）

Q 新たな日本人学校を設立する背景を教えてください。

A 現在、日本人学校はジャカルタにあるため、お子さんがいるご家庭で、日系企業が多く進出する東部の工業団地に勤務される駐在員の方は、渋滞で毎日の通勤に大変時間がかかっています。

朝早く出勤し夜遅く帰宅することになるため、家族帯同で駐在しても親子で過ごす時間がとれなかったり、平日は家族と離れ単身で工業団地の近くで生活される方もおり、駐在員のみならず家族にも大きな負担となっています。また、駐在員の心身の負荷や、長時間移動による安全面でのリスクも懸念されています。

このため、この地域で、ご家族と生活できる環境を整備し、東部の日本人社会が抱える課題を少しでも解決するため、日系企業が多く進出する東部にも新たに日本人学校を

設立することとし、まず、2015年に在留邦人有志による調査を行い、2016年にジャパンジャカルタクラブ（JJC）による調査ワーキンググループを発足、2017年に設立準備委員会を設置し、現在に至っています。

Q 新たな日本人学校の概要を教えてください。

A 新たな学校は、ジャカルタから東に約70kmにあるブカシ県チカランにあるデルタマスの複合都市開発エリアに、ジャカルタ日本人学校のチカラン校（略称はチカラン日本人学校）として、2019年4月に開校予定です。

敷地面積は40,000 m²、鉄筋コンクリート2階建ての校舎に加え、運動場、体育館、プール、コンピューター室などが整備され、快適な学校生活を送ることができるよう、全教室・体育館に冷房が完備される予定です。

クラス編成は、小学部と中学部に分かれ、各学年1クラスの計9クラスの編成を予定しており、将来的に約400名の学校規模を見込んでいます。

Q 学校の周辺環境を教えてください。

A 新たな日本人学校が開校するデルタマス複合都市開発には、日本の商社「双日」が参画しており、日系企業が多く入る工業団地に加え、地元行政機関や教育機関、住居やホテル、病院もあります。

今後、日系ショッピングモールも進出予定で、家族向けコンドミニアムや日系住宅メーカーによるスマートタウンも計画されるなど、「職、住、学」のそれぞれの機能が近接するニュータウンとして位置付けられています。

高速道路のインターに近く、現在、高速道路のダブルデッキ化に向けた工事が進められているほか、高速鉄道なども将来的につながる予定で、ジャカルタへのアクセスもさらに向上する地域となっています。

Q 現在の進捗状況を教えてください。

A 現在、施設を建設中で、2019年2月に校舎が、7月にはその他の施設も完成予定です。

また、日本の文部科学省やインドネシア政府など行政機関の許認可手続きに加え、カリキュラムの策定や教員の採用、備品の準備なども進めています。

生徒募集については、ジャカルタにある日本人学校からの転校希望調査や、日本人会、各工業団地など現地での説明会に加え、日本でもインドネシアに拠点のある企業や、今後赴任予定の方向けに説明会を行っています。

日本人学校は私立学校の性格を有しており、インドネシアの日系企業等の皆さんのご協力がないと学校の運営は難しいことから、寄付金の募集も行っています。

(建設中の校舎)



(建設中の校舎)



インドネシアに進出する愛知県企業は中国、米国、タイに次ぐ4番目に多い国となっています。

慣れない土地で仕事をしていく中で、ご家族と安心して生活できる環境は大変重要です。これからインドネシアに進出予定の企業や赴任予定の方は、事前に情報を入手し、ご参考にされてはいかがでしょうか。

(新たな日本人学校のホームページ)

<https://cikarang-japanese-school.com/>

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。

バンコク産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力しておりますが、その正確性を保証するものではありません。

本情報の採否は読者の判断で行ってください。

また、万一不利益を被る事態が生じても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。